

おとな女子の伝統工芸を楽しむ

木目込み「という」北村 佳津子さん

水保町に住む北村 佳津子さんは、北公民館 木目込み自主教室「という」と、速野公民館 木目込み教室、2カ所の講師を務めています。

木目込み歴は30年以上
仲間から「先生」と呼ばれて

伝統工芸の木目込み人形作りを楽しむ、北公民館の自主教室「という」には、現在9人の仲間がいます。代表を務める北村さんは仲間うちで、尊敬をこめて「先生」と呼ばれています。趣味とはいえ30年以上のキャリアを持つ熟練だからです。

北村さんが木目込みに出会ったのは、平成3年に速野公民館で立ち上がった木目込み教室（自主教室）。その教室は、親子ほどの離れた年配の女性ばかりだったので、先生の勧めもあって、速野公民館で行われた短期講座をきっかけに、友達に

声をかけて平成8年4月に自主教室「という」を立ち上げました。それ以来、2つの自主教室で木目込み人形の制作を続けています。

自主教室の楽しさは仲間
伝統工芸の魅力は奥深さ

発足からおよそ30年もたつ自主教室ですから、メンバーの顔触れはだいぶ変わってききました。それでも「という」では、入会1年目の人から熟練の人まで一緒に木目込み人形の制作を楽しんでいます。

北村さんは「家族の介護をしていた時は教室が息抜きでした。思い通りの人形ができるのを楽



先生はいないので、それぞれのペースでじっくり制作



作品の発表は小道具や舞台までイメージして手づくり



次の作品発表のテーマは「平安時代のひとびと」。真剣なまなざしでボディを修正する北村 佳津子さん

伝統工芸・木目込みの手順



④桐粉にのりを混ぜると桐塑(粘土)になります。⑤桐塑で成形された規格のボディを用意します。



桐塑とヘラなどの道具で、ボディを作りたい形に修正します。サンドペーパーなどで余計な凹凸を削ります。思い通りの姿になるまで何度でも繰り返します。



白い寒梅粉(のり)を入れて金襴(布)を木目込みます。



頭と小道具をつけて仕上げます。



活動1年目の人も創立メンバーも、黙々と自分の世界で自分だけの人形をイメージしながら作業しています



(取材日に活動していたメンバー)